



小森谷 博之 議員



農業の振興について

問 農業の衰退は地域の衰退へとつながると考える。ぜひとも行政の温かい手を差し伸べていただき、未来に向け、基幹産業である農業の活性化を切に願う。今後の古河市の農業に対して市長の思いを伺う。

答（市長） 市の基幹産業である農業に対しては、持続可能な地域農業を目指すため、国および県の助成制度を活用するとともに、

今般の物価高騰に伴う費用負担の軽減が図れるよう助成制度を検討していく。今後も基幹産業である農業を大切にしていきたい。



デジタル化の進捗および今後の展開について

問 現在デジタル化に向けて多くの取り組みが行われていることが分かった。今後もIT戦略プランで掲げた取り組みについて着実に進めてほしい。一方、情報セキュリティの強化をは

じめとしたデジタル化の課題もあり、その解決を図ることで古河市のデジタル化をさらに進めてほしい。今後の古河市のデジタル化に向けて市長の思いを伺う。

答（市長） デジタル化は、市民からの信頼を得ながら進めていくことが非常に重要だと考えている。情報セキュリティの強化やデジタル格差等の課題についても、市民の不安が解消できるよう真摯に取り組んでいく。

民間企業との連携を図りながら、今後も市民に優しく、市民とのつながりを大切にしたデジタル化を目指していきたい。



古川 一美 議員



障がい児・障がい者支援について

問 相談件数や児童発達支援センターの利用者は増加している。①ニーズが多様化する中で、一人一人にあった質の高いサービスを継続するには、職員の増員、専門職の人材育成が必要ではないか。②児童発達支援センターの今後の運営ビジョンはあるか。障がいがあっても魂は健全と考えている。障がいについて正しく理解し、共に成長し合える社会を目指したい。③市民への啓

発活動は行っているのか。



答（市長） ①②障がい児・者に対応するため専門的な職員の配置が求められる。基幹相談支援センター等と連携し、今後も支援に努めたい。児童発達支援センターの今後については、現在作成しているビジョンで検討していく。

答（福祉部長） ①職員は令和元年度と比較し1名増員、専門職のうち保育士は令和2年度より公立保育所から正規職員を配属し人事異動でのローテーションを行っている。②複雑化する相

談や地域支援ニーズに対応するため現在運営ビジョンを考えている。③発達障がいの特性について理解を促すため、今後も講演会や出前講座を実施していく。

学校プールの維持管理について

問 老朽化が著しい学校プールの維持に膨大な費用が必要になる。費用対効果を考え外部温水プールへの移行を早急に検討し方向性を決めるべきではないか。

答（教育部長） 学校プールが使用できる間は使用し、多額の改修費が必要となる場合には外部に移行していく。受け入れ施設の意向もあるため、学校間の共同利用も含め、先進事例を参考に利用計画を作成していきたい。